■別の I²C チャンネルを利用する

ラズパイは、すべてのモデルでは、I²C チャンネルとしてチャンネル 0 とチャンネル 1 が利用できます。チャンネル 0 の SDA が GPIO 0（27 番端子）、SCL が GPIO 1（28 番端子）、チャンネル 1 の SDA が GPIO 2（3 番端子）、SCL が GPIO3（5 番端子）に割り当てられます。なお、他の GPIO に切り替えることが可能ですが、ラズパイに備える GPIO ヘッダーからアクセスできないため、実質利用することはできません。

Pi 4、Pi 400 では、チャンネル 0、チャンネル 1 に加え、下表のチャンネルが利用可能です。　利用したいチャンネルを有効にする場合は、/boot/firmware/config.txt ファイルの「dtoverlay」項目に、パラメーターを設定して再起動します。

チャンネル番号	GPIO		config.txt の設定
	SDA	SCL	
3	2	3	dtoverlay=i2c3,pins_2_3
3	4	5	dtoverlay=i2c3,pins_4_5
4	6	7	dtoverlay=i2c4,pins_6_7
4	8	9	dtoverlay=i2c4,pins_8_9
5	10	11	dtoverlay=i2c5,pins_10_11
5	11	12	dtoverlay=i2c5,pins_11_12
6	0	1	dtoverlay=i2c6,pins_0_1
6	22	23	dtoverlay=i2c6,pins_22_23